

平成 25 年度第 1 回生きがい・介護予防分科会 会議録

1 開催日時

平成 25 年 10 月 15 日 (火) 18:30 ~ 19:30

2 開催場所、

北九州市役所 8 階 82 会議室

3 出席者等

(1) 構成員

山崎分科会長、橋元副分科会長、井手構成員、伊藤構成員、江口構成員、桑原構成員、座小田構成員、田中構成員、田村構成員、永田構成員、長野構成員、古市構成員、力久構成員

(2) 事務局

健康推進課健康づくり・介護予防担当課長、健康推進課長、高齢者支援課長 ほか関係職員

4 会議内容

(1) 第三次高齢者支援計画(生きがい・介護予防事業分野)の実施状況について

(2) その他配布資料

平成 25 年度健康づくり講演会チラシ(案)

北九州市の介護予防事業及びその対象者に関する全体像

H24 年度健康いきいきチェック(基本チェックリスト)発送者の状況(速報値)

健康いきいきチェックリーフレット

5 会議経過及び発言内容

[第三次高齢者支援計画(生きがい・介護予防事業等の実施状況)について]

北九州市国民健康保険特定健診・特定保健指導について

構 成 員

特定健診の受診率が 24 年度目標値の半分以下となっている。目標値を設定した背景、なぜ目標値と差があるのか、設定値に無理があったのか、今後の目標に向けての工夫について伺う。

健康推進課長

65%という目標値は、20 年度から 24 年度にかけての第 1 期において、国が全国一律に設定した特定健診の受診率の目標値で、本市の受診率は、23 年度は政令市のうち第 5 位、24 年度では暫定値であるが、第 4 位であり決して低い数値ではない。25 年度から医療保険者ごとに設定した参酌標準では市町村国保の目標受診率を 60%に下げている。国の目標値は大都市、政令市レベルの規模では達成困難な数値であったと思われる。

構 成 員

それにしても差がある。これを埋める更なる方策は何をしているのか。

健康推進課長

今の受診率を更に上げる方策として様々な取り組みをやっている。一般的なチラシやポスターの配布、報道機関を通じた情報発信などに加え、受診率向上に効果があるといわれているソーシャルキャピタルの活用、つまり、地域での健康づくりの牽引役である食生活改善推進員や健康づくり推進員による受診促進の声かけで受診率をあげてまいりたい。

構 成 員

受診率があまり変化しないのは毎年同じ方が受診しているのか。

健康推進課長

基本的には継続受診者がかなりいることも事実だが、対象年齢が40歳から74歳なので母数の集団が変わっている。受診率がちょっとづつ増えているということは、新規受診者も増えているということ。継続受診もお願いしながら、新規受診者も増やしていきたい。

構 成 員

受診率が同じでも高齢者人口が増えるので実数は増えるのではないか。

健康推進課長

国民健康保険加入者を対象としており高齢者人口の増加と必ずしもマッチしているわけではない。

特に、40歳代、50歳代の国保加入者は経済状況によって変わる。本市国保の加入者が実際に増え続けているという状況ではない。

介護支援ボランティア制度の実施について

構 成 員

介護支援ボランティア制度について、ポイントの付与、介護施設とのマッチングはどのように行っているのか。

介護保険課企画管理係長

8月末現在の登録は767人。活動者数は2ヶ月間の実績で234人、30%の方が活動している。施設とのマッチングについては、基本的に研修を受けボランティアとして登録した方が直接施設と交渉するが、ボランティアが初めての方、交渉先となる施設を知らない方の場合、踏み出せないこともある。研修の際に、困ったことや一歩踏み出せない時は、北九州市社会福祉協議会に相談していただき、近くの施設を紹介するなどフォローしている。

構 成 員

活動者数234人は延人数か、実人数か。

介護保険課企画管理係長

実際の活動者数、実人数である。

構 成 員

ボランティア制度について、ボランティアの方から不満の声は届いているか。

介護保険課企画管理係長

まず、良い点としてボランティア登録者からは、ポイントが貯まる事で活動の励みとなる。施設の方からは、同世代がボランティアでがんばっている姿は入所者にとっても励みになると聞いている。

一方で、課題としては、この制度は基本的には自分で活動場所を探すこととなっているが、初めてボランティアをする方の場合、一歩がなかなか踏み出せないことなどがあるため、北九州市社会福祉協議会にマッチングをお願いしている。登録者は順調に推移しているが、こうした方を活動につなげていくことが今後の課題になると考えている。

構 成 員

研修の中で北九州市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターが積極的に活動場所である施設を紹介していけばよいのではないかと考える。せっかくやる気があるのにどこで活動して良いかわからないということはもったいないことだ。そういった声があるということは、その部分に関していえばシステムがうまくいっていないということではなからうか。研修の中でボランティア・市民活動センターが積極的にマッチングを行うことを紹介してはどうだろうか。

これまで長年ボランティアリーダーをやってきた方から、これまで長年無償でボランティア活動をしてきた人たちの中には、ポイントを付与し、ある意味有償であることに混乱を感じている方もいると聞いた。この事業でさらにボランティア活動に意欲が沸くのであればそれも一つの方法だし、この事業に頼らずに、これまで通り無償でやっていくというのであればそれも結構なことだ。このシステムがそういった方たちの活動を否定するものではないと説明した。そういった声はたまたま私が聞いただけであれば良いが、今後そうした意見が出てくれば市と

して説明してあげることが必要なと思う。

年長者研修大学校及び北九州穴生ドーム運営事業について

構 成 員

年長者大学校の利用者数について、平成 21 年度からの動きは分からないだろうか。

高齢者支援課長

延べ利用者数について、21 年度は大学校が約 79,400 人、穴生ドームが約 107,000 人。22 年度は大学校が約 77,000 人、穴生ドームが約 115,000 人。20 万人弱の状況が続いている。

構 成 員

大学は同じ方が 15 年間ずっと通っていることもあると聞く。利用期限があるのか、それとも高齢者の居場所として設定しているのか。

高齢者支援課長

年長者研修大学校では 6~7 割がリピーターと把握している。同じ方がずっと受けるよりも新たな方に受けていただくことが大事と考えている。申込枠を超えている場合は、新たな方を優先的に取り扱っている。入学枠が残っていればリピーターも受け入れるとなっている。ただし、今まで受けたコースで同じものは受けられないなどの制限も設けている。現実として、6~7 割がリピーターとなっており、これは課題と考えている。

介護予防に関する普及・啓発事業について

構 成 員

26 年度目標値「介護予防の意味や意義を理解している高齢者の割合 40%」はどこから導き出した割合なのか。

健康推進課介護予防担当係長

22 年度に実施した高齢者実態調査での 38.6%を踏まえて、第三次高齢者支援計画において策定した数値である。22 年度 38.6%に対して 26 年度は高齢者のうちせめて 4 割は理解していただくことと目標に取り組んでいる。

健康推進課長

最近アウトカム評価を取り入れようという議論がある。事業の参加者数は一つの指標ではあるが、介護予防全体に対する理解がどのように進んだかという指標も必要なのではないかという議論もあった。実態調査は 3 年に一度、高齢者支援計画の策定前年度の実施であり、意識が浸透しているか実態調査を通じて評価する意図である。

通所型介護予防事業について

構 成 員

通所型介護予防事業では教室参加直後は効果が上がるが、参加者のその後について本当に効果があったかについて追えているのだろうか。

健康推進課健康づくり・介護予防担当課長

今後、介護保険制度見直しを見据えて、現在行っている事業の効果測定、評価をどうするのか、今後の介護保険事業をどのように展開していくのか、ご指摘のことは大事なことを考えている。このあと、データを若干分析したものを議題としてお出ししたい。こういったことを手始めに当局として事業評価をやっていきたい。このあと高齢者健康いきいきチェックのデータについて状況をお示しするのでご意見をいただきたい。

公園で健康づくり事業について

構 成 員

実績値を考えると 26 年度目標値 110 人は低いと思うが、設定の考え方を教えて欲しい。また、今後増やしていく考えなのか。

健康推進課介護予防担当係長

公園での健康遊具設置に伴うソフト事業である。ハード整備が終わったところに対して取り組んでいくものである。目標値は建設局におけるハード整備計画に基づいて設定した。

7区のうち大規模公園は25年度をもって設置、来年度まで教室を行う予定。その他の街区公園も予算の範囲で整備対象として広げていくと聞いているので整備が終われば取り組んでいきたいと考えている。建設局と連携しながら、健康づくり事業を展開していく予定である。

構 成 員

整備事業に関わっているので補足しますが、公園には規模の大きなものから順に「地域拠点公園」「街区公園」「近隣公園」があり、7区の「地域拠点公園」には6器具、7種目の健康遊具を設置「街区公園」には必要な器具を3つ程度を選択して設置することとしている。それに併せて、健康づくりプログラムを市民センターレベルで普及していくと聞いている。

高齢者生きがい活動支援事業について

構 成 員

ホームページ閲覧数3,254件は多いと見るべきか。

高齢者支援課長

3,000件とはいいいながら実際のところカウント数なので同じ方が複数回見てもカウントしてしまう。この指標をもって十分とは考えていない。また、24年度実績となっているが、12月から3月までの4ヶ月間の数値である。本格的には今年度からのカウントとなるが、いずれにしても、例えば、これが1万件になったからといって必ずしも十分になっているとはいえないと思う。

24年度健康いきいきチェック（基本チェックリスト）発送者の状況について

構 成 員

次回の分科会で、データの分析・評価が出たら、説明いただく。

構 成 員

2ページの該当率について、「該当」とは各々の質問項目における回答欄ピンクの部分を該当した者という理解でよいか。2ページ目一番上の該当率とは、返送者数を分母として考えてよいか。

健康推進課介護予防担当係長

そのとおりである。